

2014 年度 家政学部生活福祉学科公開講座の報告

テーマ：「養護教諭に求められる役割，これまでとこれからを問う」

日 時：平成 26 年 10 月 25 日（土）13：00～16：10

場 所：京都女子大学 J 校舎 3 階 320 教室

プログラム

- | | | | | |
|---|------------------------------------|-------------|--|----------|
| 1 | 開会 | 13：00 | 司 会 | 下村 雅昭 教授 |
| 2 | 挨拶・講師紹介 | ～13：10 | 学科主任 | 鹿間久美子 教授 |
| 3 | 基調講演 | 13：10～14：00 | 「養護教諭の『職』に魅せられて」
日本養護教諭教育学会理事長 三木とみ子氏 | |
| 4 | シンポジウム：「養護教諭に求められる役割，これまでとこれからを問う」 | | コーディネーター 三木とみ子氏 | |
| | | 14：10～14：25 | 京都市養護教育研究会会長 | 稲葉章江氏 |
| | | 14：25～14：40 | 京都市教育委員会元指導主事 | 市木美知子氏 |
| | | 14：40～14：55 | 京都市深草小学校養護教諭 | 川崎美遥氏 |
| | | 14：55～15：10 | 京都女子大学教授 | 鹿間久美子氏 |
| | | 15：10～16：00 | ディスカッション・まとめ | |
| 5 | 閉会挨拶 | 16：00～16：10 | 学科主任 | 鹿間久美子 教授 |

講座の概要とねらい

本講座では、学生・養護教諭及び教育関係者・社会人一般を受講対象として、三木とみ子氏から基調講演「養護教諭の『職』に魅せられて」をご講義いただきます。その内容に基付き、同氏のコーディネートで、京都市養護教育研究会会長・京都市現職養護教諭教育担当・本学生生活福祉学科卒業京都市新採用養護教諭・本学養護教諭養成担当の各立場からご報告をいただき、参加者とともに、「養護教諭に求められる役割、これまでとこれからを問う」のテーマについて考えていきます。まずは養護教諭についての理解を深めていただいた上で、「養護教諭でよかった」「こんな養護教諭になりたい」「絶対養護教諭になる」という参加者の意識を高めることをねらいとしています。

挨拶・講師紹介

本日は「生活福祉学科公開講座」にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。本日のテーマ「養護教諭に求められる役割、これまでとこれからを問う」について、限られた時間ではございますが、皆様とともに考えてまいりたいと存じます。

まず、基調講演では、全国津々浦々すべての養護教諭にとって、師匠のような存在である「三木とみ子先生」をお迎えし、本学でも学生たちの教科書となっている「養護概説」などのお教えを、直に、「生—三木とみ子先生」からいただける、今日の日を待ち望んでおりました。また、先生は日本養護教諭教育学会（pink 学会）・日本健康相談活動学会（yellow 学会）の理事長という重責を担われておいでです。したがって、ご著書ご業績の数々は、枚挙にいとまがございません。ほんの一部ではございますが、要項に載せておりますのでどうぞご覧下さい。なお、三木先生からは、シンポジウムのコーディネーターもお引き受けいただいております。

次に、シンポジストには、三木先生とともに、養護概説同様、養護教諭にとって最も固有な専門科目「健康相談活動論」に関する、我が国の学会立ち上げにご尽力され、本学においても学会趣旨に基づいた、魅力的なご講義をいただいております市木美知子先生をお迎えいたしました。先生は、京都市の指導主事として長年養護教諭のために力を注がれ、京都市養護教諭の羅針盤となってこられたことは、ご参加の先生方にはご周知のことと存じます。

その、市木先生のお教えを受けて、現在の京都市養護教育研究会の会長としてご活躍の、稲葉章江先生からは、京都市における充実した研究組織活動などについてお聞きできるものと期待しております。過日稲葉先生ご勤務先の保健室にお邪魔いたしました折は、子どもたちの保健管理・保健指導を中心に据えた、素敵な保健室の工夫の数々を拝見し、さすが～という思いがいたしました。

そして、養護教諭を目指す学生の皆さんにとっては、本学昨年度卒業、現役で京都市の採用試験に合格された、あこがれの先輩、川崎美遥先生にもおいでいただきました。先生の成功・失敗談を含めて、現場での奮闘ぶりについてもお聞きできるものと思っております。

以上の先生方から、講師をご快諾いただきました時点で、本講座が魅力的な内容として、ご参加の皆様方にお届けできると確信いたしました。本日は、お一人お一人のご参加の方々に有意義なお時間をお過ごしいただけますことを願ひまして、あいさつに代えさせていただきますと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

（文責：学科主任 鹿間久美子）

三木とみ子氏基調講演資料一覧

基礎資料

- ・養護教諭の沿革（職務・資質との関連を中心に）
- ・学校保健安全法改正前と改正後の比較
- ・保健体育審議会答申（H9/9/22）中央審議会答申（H20/1/17）養護教諭
- ・中央教育審議会答申・学校保険安全法・同施行規則・局長通知
- ・養護教諭が行う健康相談・健康相談活動のプロセスと必要な資質能力 108 の視点
- ・個別指導の手順対象者の把握から指導の実際と評価

- ・これからの保健室経営―保健室経営計画に活かす視点（2014）
- ・「保健指導の基本」学校保健安全法第9条を身近な実践に活かすために

参考資料

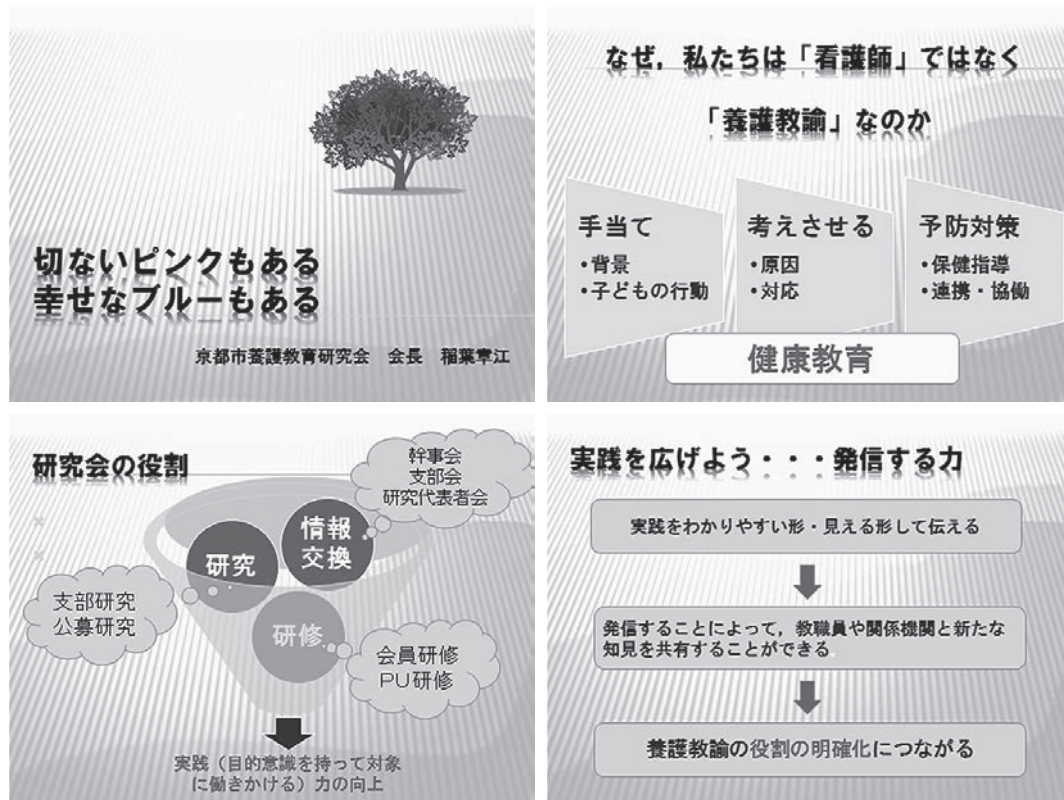
- ・養護教諭関連「現職養護教諭～」48年間の勤務内容― 一覧表
- ・「職」を退くということ―養護教諭へのこだわりはつづく―
- ・教師冥利につきると言うこと―育て、学んだ学生との関わりから―
- ・変化の時代における養護教諭の課題と展望

まとめとお礼

この度の公開講座では「本当に多くの学びができた」と250名の学生から感想が寄せられました。また、学外からのご参加も2名の京都市教育委員会指導主事、市内外の養護教諭はじめ、京都府内外の大学関係の方々、フリーライターや現役の高校生そして一般市民の方など50名以上の多彩なご参加をいただきました。心から感謝いたしております。

今後とも本校の養護教諭養成課程にご指導ご協力を賜りますことをお願い申し上げます。

稲葉章江氏資料



市木美知子氏資料

**養成教育と現職教育の一貫性により
養護教諭の資質の向上と力量形成を**

元京都市教育委員会
指導主事 市木 美知子

京都市における現職教育の実態

- 1.全養護教諭対象……年間2回
- 2.採用10年目研修……年間10回
- 3.採用5年目研修……年間2回
- 4.採用3年目研修……年間2回
- 5.採用2年目研修……年間2回
- 6.採用1年目研修……校外研修20回
校内実地研修15回
- 7.養護担当講師研修……年間7回

提言 *つけたい力と今後の課題*

- 1.学校保健の中核的立場を果たす養護教諭
企画力・実行力・調整能力
- 2.ヘルスプロモーションの理念に基づいた活動
健康日本21への貢献
- 3.子どもへの適切な対応 **ヘルスアセスメント**
 - ・フィジカルアセスメント
 - ・心理的アセスメント
 - ・社会的アセスメント
 - ・生活習慣アセスメント
- 4.養成教育と現職教育の一貫性
指導者の連携 研究協力

養護教諭とは

学校における全ての教育活動を通して
ヘルスプロモーションの理念に基づく健康
教育と健康管理によって、子どもの発育・
発達の支援を行う特別な免許を持つ教育
職員である。

(日本養護教諭教育学会 2003)

川崎美遥氏資料

養護教育実習の学びから

京都市立深草小学校 養護教諭
(平成25年度 京都女子大学卒業生)
川崎美遥

**学生時代に身に付けておけば
良かったこと(専門的立場から)**

- 様々な病気・けがの事例に関わること
 - ・呼吸器、皮膚症状、痛みなどの特徴
- 地域の医療・福祉制度に関する知識をつけること
 - ・学童う歯対策事業、子ども医療費支給制度など
- 専門的職務を繰り返す、できるだけ多く経験すること
 - ・スポーツ振興センター事務手続き
 - ・健康診断票の書き方(歯式など)
 - ・器具消毒

6. 養護教育実習で学んだこと、
よかったこと

〈学んだこと〉

- ・学校は、組織で動いている
- ・児童一人ひとりにきちんと向き合うことの大切さ

〈よかったこと〉

- ・多くの学校行事を体験し、養護教諭の職務や連携について、具体的に理解できた。
- ・児童が抱える様々な健康課題について理解できた。

学生時代に身に付けておけば
良かったこと(教職員として)

説明能力

- ・言葉をかみ砕いて説明する
- ・短い時間でも確実に要点を伝える

計画・実践力

- ・先を見通し、優先順位をつける
- ・中途半端にせず、確実にやり抜くこと

足跡を残す習慣

- ・記録やコピーを必ずとって整理し、今後に活かす

鹿間久美子氏資料

平成26年度京都女子大学家政学部生活福祉学科公開講座
養護教諭に求められる役割
～これまでとこれからを問う～

養成教育の立場から

養護教諭

新しい教員免許状取得要件科目
「教職実践演習」の紹介

京都女子大学家政学部生活福祉学科
鹿間久美子

教職実践演習

～実践的指導力を備えた、養護教諭の養成～

学校教育の場で確かな実践ができ、養護実践※の教育的価値について省察することができるような養護教諭をどのようにして育てるか

※養護実践：
「児童生徒等の心身の健康の保持増進によって発育・発達の支援を行うために、養護教諭が目的を持って意図的に行う教育活動である」
（日本養護教諭教育学会養護教諭の専門領域に関する用語の解説集<第二版>2012, 11頁）

Ⅲ 養護実践とエビデンス

「養護教諭のジレンマ」：ねらい

養護実習を踏まえて、養護教諭としての身近な課題について討議する中で、他者の意見を聞き自分の考えをまとめることにより、日常的に【1】エビデンスを意識して養護実践を行うことの大切さに気付く。

また、養護教諭の倫理綱領(案)と日本養護教諭教育学会用語の解説集を【2】拠り所として、自分の置かれた状況を判断し、改善策を考えることができるようになる。

倫理を切り口に何を身に付けさせるか

☆養護実践とエビデンスに関する理解と具体的な活用方法
☆人間力向上の学び(倫理を基に自己の力量を判断)

- ・現場では連携が重要となるものの、他者とのかかわりの中で、時に困難を背負い込み、迷いが生じ失敗する
- ・困難にめげずに挑戦し、自分がどこまでできるか、またはできないか客観的に判断する力を養う
- ・困難や高いハードルを乗り越えることを恐れず、体験が「自信」となるように捉え自分を磨く良い循環を作る力を培う

☆子どもを守る・自分を守る力

ハード面：養成制度や教育・複数配置・研修機会等の整備
ソフト面：倫理教育等を切り口に自己省察力の強化を

